

職朝での校長挨拶 12

おはようございます。今日はアクティブラーニングについて。「主体的・対話的で深い学び」って何でしょう。主体的な学びって何でしょう。単に自分から学ぶ、ということでしたら少し違うのではないかと思います。人間を超えたものの働きによって気づかされているということに気づくこと、こうした気づきの中で主体的な学びが成立します。対話も自分と他者がいて、対話するんじゃない。人間を超えた働きに照らされて対話が成立する。どこまでも深いものに導かれて深い学びが成立する、ということだと思います。本日もよろしくお願いします。

職朝終了後

ある先生より「今日の話はなんか抽象的で分からなかった。主体的な学びとっているけれど、それ以上のものをいおうとしていることは分かったんだけど。」といったご意見をいただきました。その後「目から鱗」の話が出て面白い展開になりました。自分で目から鱗を取ることは出来ません。鱗は落ちるものです。それでびっくりする。これは自分を超えた働きによって気づかされたということだと思います。これは教師が教えてしまっただけでは起こりません。何をきっかけにして起こるか分かりません。教師のどんな言葉をきっかけにして起こるかも分かりません。その意味で「突然」起こります。しかしその（生徒の）変化は教師には分かるんですね。

別の先生は「こちら側にはきっかけはないんですか」とおっしゃいます。「ないです。」とその場では答えましたが、少なくとも探究している、求めているということは不可欠な条件のような気がします。それがないと「気づき」に言葉を与えることも出来ず、「気づき」が「気づき」にならないように思うからです。その先生は「昔いくら時間をかけても教科書をいくら読んでもだめだった」とおっしゃっていましたが・・・。